

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	すまいる		
○保護者評価実施期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0名	(回答者数) 0名
○従業者評価実施期間	令和 8 年 1月 6日	～	令和 8 年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○訪問先施設評価実施期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	0名	(回答者数) 0名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 2月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種での連携を図ることができ、園や保護者からの相談や困りごとなどにも専門の職員にすぐに相談し応えることができる	和こうや訪問先の園で挙げられるこどもの課題(行事への参加、集団活動での過ごし方など)を、様々な職種の視点から支援方法を検討して実施している	必要に応じて和こうやリハビリテーションの見学を行える体制を整えて挙げられた課題は各機関で情報共有を行い、共通した支援を提供することができるようにしている。事業所内でも情報の共有を図り、園やご家庭と同一の関わりをできるように努めている
2	併設している児童発達支援事業を利用しているこどもが多く、児童発達支援の環境は少人数の環境であるため、個々のニーズや成長発達段階を細かくアセスメントを行うことができ、計画に反映しやすい	こどもが併用利用しているこども園の運動会や表現会等の行事への行事参加のための連携(一人ひとりの参加の形や、保護者の方への伝え方など)を図ることを意識して行っている	行事前の練習の様子などを見せていただき、苦手な環境や設定に対してどのように対応していくか、周りの子どもたちからのサポートの在り方などを一緒に考えていく。当日までの過程を気持ちよく過ごしていけるように連絡を密に取り合いながらすすめていく
3	研修を通して、地域のこども園、幼稚園の職員の方の困りごとや疑問に対して話し合う機会を設けている。地域のこども園、幼稚園との連絡を密に行うことで、困りごとなどがあつた際にはすぐに連携を図り、一緒に解決に向けて考えていくことができる	県委託の研修会を通して、これまでつながりがなかったこども園等の職員とも交流することができる 就学準備や地域のこども園等への移行など、ご家族のニーズを把握できるよう努めている	必要に応じて主となり担当者会議を開催する。 地域障がい者自立支援協議会に参加し、知り得た情報は現場の職員に共有し、関わり方の参考にさせて頂いている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問を希望するご家族のニーズがあるが、訪問支援員の人数や、時間の確保が難しく定期的な訪問が難しい状況があつた	訪問支援員としての、専門的な知識や経験がある職員が少なく、今年度は訪問先との日程調整も難しく実施できなかった	専門的な知識を得られるような研修への参加の機会を設けたり、実際に訪問先に訪問員の他、複数の職員で訪問させていただき、実際に経験を積む機会を設けていく
2	訪問支援の内容が、こどもの様子を見たり職員との話し合い・情報共有が主になることが多く、児に対しての直接支援や保育の現場に入つての助言などが行えず、支援を行っていく十分な内容・時間を確保することが難しい	訪問先施設が支援を難しいと感じる具体的な場面(例:給食時間、登園時間、主活動時間など)に合わせて訪問することが難しく、電話などでやりとりをすることが多い。 他職種と兼務しているため、訪問支援員の人員を十分に確保することができない	訪問支援員が、訪問先が支援を必要とする時間に合わせて滞在し支援を行えるように、専任配置することが課題として挙げられる。まずは事業所内で連携を図り、部署間で職員の応援体制を整え、適切な訪問時間を確保できるよう検討していく
3	現在は同事業所にある児童発達支援を利用している児の訪問だけを行っており、その他(地域の保育所、こども園などのみ)を利用している児への訪問などの訪問を行っていない	専門的な知識・経験が訪問支援員に求められるが、スキルが不十分であり、アセスメントや個別支援計画の立案、支援の実施なども難しい状況がある	研修などに積極的に参加し、個人のスキルを高めながら保護者や、地域の園のニーズに応えられる訪問支援員を増やしていく